日比谷カレッジ
HIBIYA COLLEGE

活字のかたち鑑賞会

印刷技術の発展に合わせて、実用性と美しさを兼ね備えながら進化を続けてきた活字。情報伝達の道具としてだけでなく、デザインの中心を担う素材としても重要な役割をはたしています。現在では、紙からパソコンやスマホの画面へと使用が広がり、「フォント」という呼び名が一般的に使われるようになりました。このシリーズ「活字のかたち鑑賞会」では文字のかたちに焦点を当て、本への新たなアプローチを試みます。

青:改刻前　赤:改刻後（秀英明朝L）

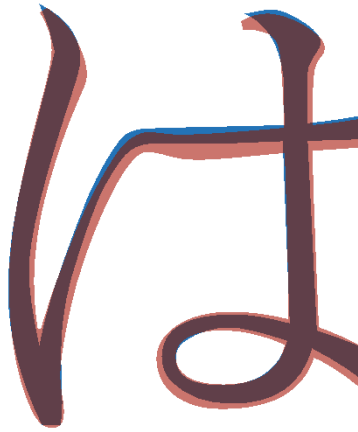
秀英体の生命力

活字のかたち鑑賞会　その2

明朝活字の代表的な書体、秀英体。
この書体は「広辞苑」や新潮文庫など、現在も多くの書籍に使われているため、本好きの方ならどこかで一度は目にしたことがあるかもしれません。

100年以上の歴史を持つこの書体は、長らく大日本印刷株式会社（DNP）の印刷で使われてきましたが、より多くの環境で活用されることを目的に2005年からリニューアルプロジェクト「平成の大改刻」が始まり、7年をかけて10書体12万字の開発が行われました。

書体がどのように作られるか、印刷と活字の歴史、利用事例なども交えて、これまでとこれからの「秀英体」をお話しいただきます。



2019年
6月13日（木）
19時～20時30分（18時30分開場）

千代田区立日比谷図書文化館
地下1階 日比谷コンベンションホール（大ホール）

参加費 1000円

定　員 200名（事前申込順。定員に達し次第締切）

講師

伊藤正樹
大日本印刷株式会社 秀英体開発グループ所属、グループリーダー。1998年から秀英体の開発と普及活動に取り組む。秀英体のリニューアル事業「平成の大改刻」ではプロジェクトリーダーを担当。

宮田愛子
大日本印刷株式会社 秀英体開発グループ所属。
入社以来、「秀英体」を担当。「平成の大改刻」では開発書体すべての字形チェックを行う他、新書体である「秀英角ゴシック金・銀」「秀英丸ゴシック」の企画開発をはじめ、フォント開発を担当。

お申込み
①ホームページの申込みフォーム
②お電話（03-3502-3340）
③ご来館（1階受付）
いずれかにて参加希望の講座名、お名前（よみがな）、お電話番号をご連絡ください。

小学生以下のお子様が参加される場合、保護者の同伴が必要です。（同伴者の方にも参加費が必要です。）

主催　千代田区立 日比谷図書文化館
千代田区日比谷公園1-4　（日比谷公園内）
https://www.library.chiyoda.tokyo.jp/hibiya/

●都営三田線「内幸町駅」
A7出口／徒歩3分
東京メトロ●丸ノ内線●日比谷線
「霞ケ関駅」B2出口／徒歩3分
東京メトロ●千代田線
「霞ケ関駅」C4出口／徒歩3分
JR「新橋駅」
日比谷口（SL広場）／徒歩10分